

## 「向島まつり 2024」大盛況！

僕は向島が好きだ。向島にいると心地良い。向島まつりの時はさらに強く思う。なぜだろう？

10月27日（日）、「向島まつり 2024」が開催された。今回で18回目（前身の秋の祭典等含む）だ。主催者発表では約2,000人の来場者！大盛況だった。

今回の特徴は、これまで前日に前夜祭として多文化イベントを行っていたが、今回は一緒に開催したことだ。向島学生センターの留学生や外国ルーツの住民による「我が国の文化紹介」では言葉クイズやスタンプラリーがあり、また、模擬店ではインド・ネパール・ペルー・メキシコ・ベトナム等々のブースが並び、食べ物や装飾品、展示等により様々な国の文化に触れることができた。京都文教大学の馬場先生のゼミも、世界のユニークな楽器展示や手作りお菓子販売、子ども向けに世界のぬり絵をするなど学生も盛り上げていた。

また、呼び物の地元農家による「朝採り新鮮野菜市」や医療・福祉事業所による「健康チェックコーナー」、こども新聞ワークショップやまと当て等の子どもコーナーもさらに充実し、乳幼児から小中学生の子どもたちもたくさん遊びに来てくれていた。模擬店の「お昼過ぎにはほぼ完売状態」も恒例！地域通貨「むっか」も定着していた。

ステージでは、小中学生の吹奏楽部の演奏、ヒップホップダンスやバトンワリング等あり、西アフリカの太鼓の演奏では観客もステージに飛び込み出演し、ステージと観客席が一体となって全体がさらに盛り上がった。例年、後半は人が少なくなるが、今年は最後まで観客席がいっぱいだった。

このように、「向島まつり」では、子ども・若者・大人・高齢者・障がいのある方・外国ルーツの方等々が一斉に集い、それぞれのブースでも交流が芽生え、多文化・多世代交流が自然にできている。住民の手作りのイベントだからなおさら親しみやすさを感じる。また、向島・向島南学区からもお手伝いにたくさん来て頂いて、自転車整理等もスムーズだった。5学区全体で作りに上げているまつりであり、人と人とをつないでいるのだと改めて実感した。

向島まつりは、向島まちづくりビジョンが掲げる「多文化・多世代共生の街」「暮らし心地を誇れる街」を具現化している一日と言えよう。向島は、互いに違いを認め合い、寄り添う土壤があるとを感じる。だから心地良いのかな。そう思える人をもっと増やしたいな。（「あいりん」佐藤雅裕）









